

高標高地におけるシカ捕獲手法の開発(2) (環境省地域生物多様性保全活動支援事業(山梨県))

高標高地に生息するシカは季節移動するため、地点ごとの密度変動が大きいことから
越冬地あるいは越冬地への移動のルート上で、密度の高い地域と期間を把握して捕獲することが重要

流し猟式シャープシューティング

特徴

- 林道から10数mの距離に給餌場を設置。
- 約2週間の連続給餌で日中にも誘引が可能。
- 誘引個体をすべて捕殺することを前提に捕獲を実施。
- 捕獲効率の格段の向上が期待できる。
- 早朝よりも夕方の誘引個体が多く、捕獲には夕方が適している。

試行結果概要

- 八ヶ岳で9か所、富士北麓で6か所の給餌場を設置し、毎日7時～8時に連続給餌を実施。
- 給餌開始の約3週間後に基本的に射手2人と運転手の計3人で捕獲を試行。
- 14時～日没までの約2.5時間で八ヶ岳で4頭、富士北麓で2頭を捕獲。

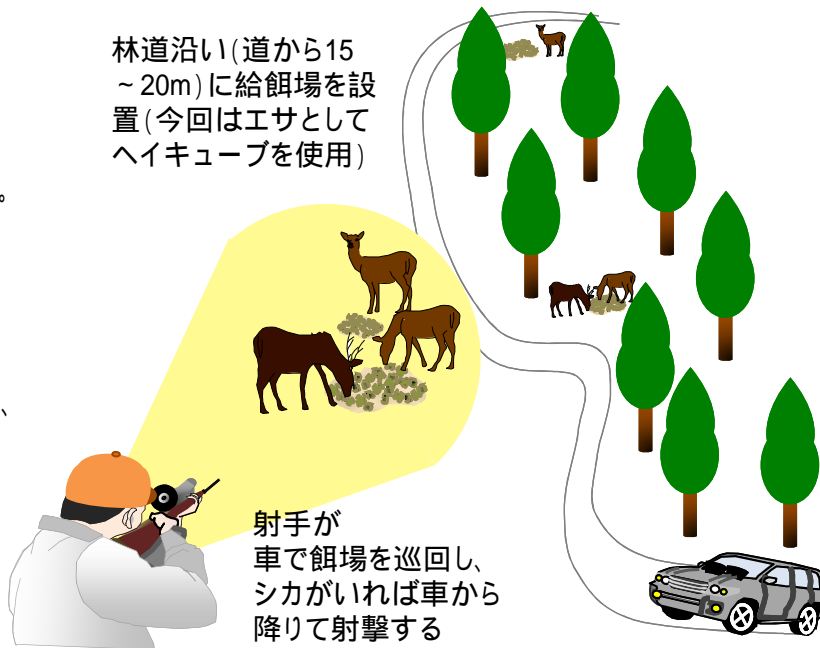
実施上の留意点

- 狙撃技量が高く、自制心の強い射手が従事(スレジカを生まないために)。
- 確実な誘引を実現するために、継続的な給餌体制を確保。
- 林道の通行制限や広報などの安全対策を実施。
- 適季は晩秋から初春期のため除雪体制を整備。

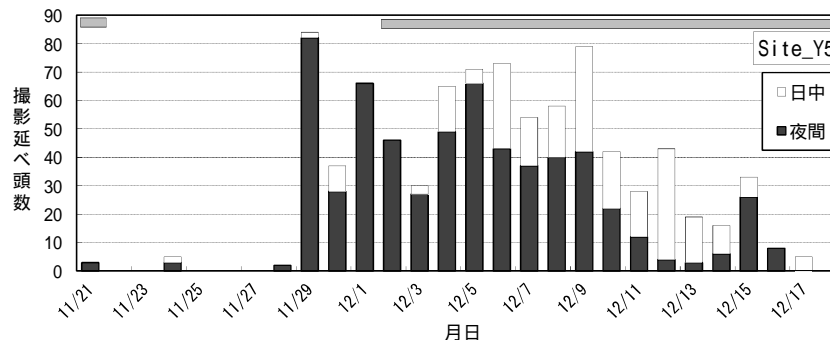
捕獲効率上昇のための課題

- 車内あるいは車上からの狙撃の条件整備。
- 捕獲班と回収班の分業体制の確保。

林道沿い(道から15～20m)に給餌場を設置(今回はエサとしてハイキューブを使用)



射手が車で餌場を巡回し、シカがいれば車から降りて射撃する



日中・夜間別の撮影延べ頭数の経時変化

給餌の約2週間後から日中の誘引個体の割合が増加